

浜岡原子力発電所における供用期間中検査の管理状況に関する 調査結果について(原子力安全・保安院への報告)

2010年9月9日

当社は、他社の原子力発電所において、定期検査および定期事業者検査の一環として実施している供用期間中検査^{※1}の計画に含まれていない溶接箇所が確認された事象^{※2}について、原子力安全・保安院からの指示に基づき、同様の事象がないか調査を行ってきました。

本日、調査結果がまとまったことから、その内容を原子力安全・保安院へ報告しましたのでお知らせします。

調査の結果

調査の結果、当社においても、供用期間中検査項目のうち、非破壊検査(浸透探傷検査)の対象に含めていない溶接箇所があることを確認しました。

非破壊検査の対象に含めていなかった溶接箇所は以下のとおりです。

号機	機器の名称	該当する溶接箇所
3号機	CUW ^{※3} ポンプ入口原子炉ドレン側元弁	弁箱フランジと弁箱の溶接箇所
	RCIC ^{※4} ポンプ	
4号機	RCICポンプ	ポンプ支持部材取付け溶接箇所
5号機	RCICポンプ	

これらの溶接箇所については、建設時の検査記録により適切に製造されていること、および運転開始以降については、点検計画に基づく計画的な機器の分解点検、供用期間中検査による漏えい検査等を実施し異状がないことを確認しており、溶接箇所の健全性は確保されていると評価しています。

今後の対応

今回の調査で確認した溶接箇所について、供用期間中検査計画に反映するとともに、至近の定期検査において供用期間中検査を行います。

- ※1 供用期間中検査とは、原子力発電所の商業運転開始以降または機器を取り替えた後の当該機器の稼働以降に、設備の非破壊試験および漏えい試験等を行い、設備の経年変化を確認する検査です。
同検査の検査箇所、検査方法、検査頻度は、社団法人日本機械学会 JSME S NA-1-2008「発電用原子力設備規格 維持規格(2008年版)」等に定められており、当社は、これに基づき供用期間中検査の計画を策定しています。供用期間中検査は、検査対象設備の重要度に応じて、実施する項目が決められています。
- ※2 他社の事象とは、2010年7月21日の日本原子力発電株式会社の敦賀原子力発電所1号機で確認された事象です。
- ※3 CUW(原子炉冷却材浄化系:Reactor Water Clean-up Systemの略)とは、原子炉水中の不純物を除去し、水質を維持するための系統です。
- ※4 RCIC(原子炉隔離冷却系:Reactor Core Isolation Cooling Systemの略)とは、原子炉が隔離し、通常の原子炉への給水系統が使用不能な場合に、原子炉へ給水を行い、原子炉水位を維持し炉心を冷却する系統です。

以上